

環世界は進化する



Step Beyond The Limitations.

永田円了

世界は一つ、というけれど実は人は皆バラバラの世界を生きている。つまり、私とアナタがいる世界は、全然ちがうということである。生物学者、ヤーコブ・ユクスキュルは、「すべての生物は、それぞれ異なる時間と空間を生きている」と言い、それぞれの世界を「環世界」と名付けた。

例えば、森を想像してみよう。ある人は杉の木が生い茂り、薄暗い森を想像する。またある人は、小川が流れ、原始林の隙間から日光が差し込む森の姿を想像するかもしれない。ユクスキュルは、マダニを例にとり、いったい森はマダニにとってどのように想像されているのだろうか、を考えてみた。人間のような視力、聴力を持たないマダニにとって森は、ただの真っ暗闇の空間。では、マダニはどうやって生き延びているのか。

マダニは、人間の何倍もの嗅覚と温度を感知する能力のお陰で、近くを通る哺乳類に食らいつき、血を吸って生きているのである。つまり、マダニは臭いと温度しか感じない世界（環世界）に住んでいるわけである。



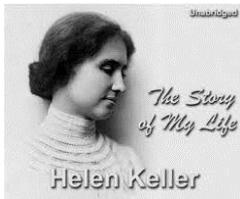
私の環世界、アナタの環世界

このようにマダニのような生物の環世界と人間の環世界は当然大きく異なる。では人間同士の環世界はどうだろうか。例えば、お寺の本堂は参拝者にとってどのように見えているのだろうか。ある人にとっては、お香の薫りが充満する空間であり、また仏像に興味のある人は、本堂にはいってまず本尊さんに目がいくだろう。花屋さんは、どんなお花が生けてあるのかに目がいく。各人の価値観によって、そこにあるのにそこにはない。

ある人にははっきりと見えているものが、他の人には見えていない。つまり同じ空間にいても、かくも異なる環世界が人間同士の間でも存在するのである。

環世界は変化しうる

生物それぞれが独自の環世界をもって生きていることを述べた。ではこの環世界は、固定したものなのか。例えば、盲導犬はイヌの環世界をもちながら、訓練によって人間の環世界を身につけている。赤信号では止まり、歩行者の目線で危険物に反応するよう教育される。これは大変な時間と労力が必要になるが、つまり環世界は変わりえる、ということである。



見えない、聞こえない、話せない三重苦をもったヘレン・ケラーは、アン・サリバン先生の教育を受けるまでは、マダニ同様の環世界にいた。しかしサリバン先生の不撓不屈の教育が、彼女の環世界を変えた。体には障がいがあっても、心には何の障がいもないことを証明した。むしろそのハンデをバネに、残っている感覚を網のように繋ぎあわせ、歴史に残る偉業を成し遂げたのである。

“人生とは思い切った冒険なり。それ以外のことは、ただの藻くず” — ヘレン・ケラー

<事例 DVD>

哲子の部屋 Eテレ/環世界は学ぶことで変化しうる
 豹変した盲導犬/イヌの環世界 vs. 人間の環世界
 渡辺謙/王様と私、環世界を進化させる
 パリアアリーの福祉施設 in 富山、萎縮した環世界を広げる
 映画『恋はデジャブ』Groundhog Day/環世界を変える
 映画『奇跡の人』アン・サリバン女史、ヘレン・ケラーを教育する
 真実の2012より/ジーン・ヒューストン、ヘレン・ケラーを語る
 歌・ダイアナ・ロス Do you know where you are going to?

円了のホームページ: www.enryo.jp

